

平成28年度 第1回府中市環境審議会会議録（要旨）

平成28年7月13日（水）
午後6時から午後8時まで
北庁舎第3階会議室

- 1 出席委員 伊東準一委員、加藤信次委員、佐伯四郎委員、服部美佐子委員、石谷真喜子委員、川辺清二委員、増山弘子委員、宮地賢委員、表伸一郎委員、小西信生委員、玉山真一委員（副会長）、宮川力委員、榎本弘行委員、金子弥生委員、室英治委員（会長）（15名）
- 2 欠席委員 なし
- 3 事務局 間宮生活環境部長、前島環境政策課長、小森環境政策課長補佐兼環境保全活動センター担当副主幹、宗村環境改善係長、環境改善係石田
- 4 傍聴者 なし
- 5 議 事 (1) 中間見直しのスケジュール、中間見直しの経緯・目的について
(2) 温室効果ガス排出量の現況について
(3) 市民及び事業者の環境意識調査結果について
- 6 資 料 資料1 府中市地球温暖化対策地域推進計画中間見直し第1回環境審議会資料
資料2 アンケート結果比較表

【議事内容】

- 事務局 第1回府中市環境審議会を開催する。会議前に配布資料を確認する。
府中市環境審議会規則第5条第2項の規定により、定足数が過半数に達することで成立することとなっているが、本日の会議は出席委員数が過半数に達していることから、有効に成立している。
次に、傍聴についてであるが、本会議は府中市情報公開条例に基づき、原則公開となっている。本日、傍聴人はいるか。
- 事務局 本日、傍聴人はいない。
- 事務局 それでは、次第に従って、会議を進める。
まず、審議会の開催にあたり、高野市長からあいさつする。
- 市 長 （市長あいさつ）
- 事務局 続いて、高野市長から、会長に、諮問書を伝達する。

(市長から会長へ諮問書を伝達)

事務局 市長は他の公務のため、退出する。
議題に移る前に、平成28年度の人事異動に伴い、事務局職員の異動があったので、改めて紹介する。

(事務局自己紹介)

議題に移る。ここから先の進行は会長にお願いする。

会長 これから先は、私が議事を進行させていただく。ただいま諮問書をいただいたが、諮問事項について事務局から説明をお願いする。

事務局 (諮問の趣旨説明)

会長 諮問の趣旨について、何か質問はあるか。

委員 スケジュールについてはこの後説明があるのか。

事務局 この後説明する。

会長 他にないようなので、次第の4. 議題、(1) 中間見直しの経緯・目的について、事務局から説明をお願いする。

事務局 順序を変えて、中間見直しのスケジュールの説明を最初に行う。

(中間見直しのスケジュール、中間見直しの経緯・目的について説明)

会長 今の説明に関して意見、質問はあるか。

委員 今年度の環境審議会の内容は、この温暖化対策計画見直しが全部と考えていいのか。

事務局 メインの議題は地球温暖化対策地域推進計画の中間見直しであるが、毎年行っている環境基本計画の進捗管理について、第2回審議会での報告を予定している。

会長 他に何かあるか。本日は報告なので、審議をお願いするのは第2回と第3回になる。他にないようなので、議題(2)の温室効果ガスの排出量の現況について、事務局から説明をお願いします。

事務局 (温室効果ガスの排出量の現況について説明)

会長 今の説明に何か意見、質問はあるか。

委員 府中市役所は、どの部門に該当しているのか。

事務局 業務部門に該当している。

委員 府中市の街路灯が何本あって、そのうち何本がLEDに切り替わったか把握しているのか。

事務局 市道や街路灯の管理をしている部署に確認したが、割合については把握できていないとのことであった。こちらでも、確認できる状況ではない。

委員 どうやって府中市の二酸化炭素排出量が平成2年度比で、平成25年度に25%増加しことを把握したのか。

事務局 資料1の4ページ目の部門別の算定手法の概要区分が出ているが、例えば家庭部門では市内の従量電灯、時間帯別電灯の電力を推計しての積算となる。その様な形で産業部門、運輸部門等を算定したうえで、全部の合計から他の部門を抜いたものを府中市業務部門分として算定しており、細かな積み上げというよりは推計という形を出している。実際の契約電力量の算定はできかねるので、あくまで推定となる。

会長 他にあるか。

委員 業務部門の伸び率が高いと大きいという説明があったが、例えば、電力・都市ガス以外の算定は、建物用途別燃料消費量原単位と床面積の2つのファクターで計算しているという事で理解した。その場合に、府中市でどんなに頑張っても、原単位は東京都が決める指数であるから、変更することは出来ない。床面積も、長い目で見たら開発行為の規制などもあるかもしれないが、基本的には生活環境部で決められるものではないと思われる。そうすると、例えば、業務部門だけでは97%アップというけれども、ほとんどが府中市の行政はもちろん、1つ1つの事業者も削減しようとはしているのかもしれないが、マンション、事務ビルを作って産業振興をやれば、当然これは増えてしまう。これから色々、目標を作ったりすると思うが、現実的な目標にしないことには話にならないと思うので、例えば業務部門に関して言うと、床面積のような変えられない部分と、事業者の努力で削減できる部分があるような資料を提示して欲しい。家庭部門でも、人口や世帯の増加なども含めて提示して欲しい。それも含めて審議会でコンセンサスをとりやすくなるような資料を次回以降でかまわないので出してほしい。

事務局 市が動かせる、動かせない部分というのを、もう少し明確に示したような資料か。

委員 この計算式で算出した際の、実際の数字を見せてもらって、市としてはどうしようもないし、市民としても事業者としても動かしようがないような数字かどうかを確認したうえで、我々ができる事は何かを考えたい。例えば、ここでいう業務部門の所で、床面積をもっと減らしましょう、なんて話も多分できない。変えられる部分はどこか、そういう議論が出来るような資料を出してほしい。

会長 それを掘り下げるのは、なかなか難しいのではないか。

委員 この計算式で出しているんで数字そのものは出てくると思う。ただ、それができるか

どうかは、会長の言うとおりに難しいと思うが、それは、事業者もいるし、一般消費者や生活者もいる中なので、そう簡単にはいかないと思う。そういった中で、それなりに種別するような目標が出てきて、国の目標の数字とうまく合えばいいが、合わなかったらどうするのか。

会 長　　そういうインセンティブをちゃんと与えるような項目がないかということが入ってくると思うが、たとえば人口が増えてくると、当然府中市全体で考えた時には全体量が増えてくる。そうすると、原単位をどうするかという話が、そこでできればいいと思う。

委 員　　原単位は、多分変わらないと思う。

会 長　　だが、原単位を変えないと絶対量が増えてくる。

委 員　　原単位は、原子力を使わないことによる増加については、我々として変えようがない。ただ、原単位の求め方がわからないまま目標を決めてしまった場合、結局目標を達成できなかった、という事態になりかねない。

会 長　　それは審議会委員でアイデアを出し合い、知恵をいただきながら、どういう風にやったらいいのか、というのを検討するようにしたらどうか。

委 員　　まずはその計算式が、これで行くしかない、というコンセンサスが必要であると思う。

会 長　　今日は事務局から報告をしてもらったので、審議会の委員も考えていただいて、これを咀嚼していただき、良いアイデアを2回、3回の審議会のときに提案いただきたい。

事務局　　本審議会でもいただいた、市がどうにかできるのか、できないのかという様なものは、先ほど、府中市の温室効果ガス排出量として、最新で114.6万トンというのをお示ししているが、この積み上げの1つ1つの細かな数字があるので、その中から市民や事業者の努力で削減できるものは、示せると思う。

会 長　　他に何かあるか。

委 員　　10ページ目の図2-9のそれぞれのグラフが出ているが、「その他のサービス業」は具体的にはどういうカテゴリーになるものなのか。事務所ビルとその他のサービス業が平成14年くらいから増えているが、その他のサービス業とは何か。

事務局　　確認して後日お答えする。

会 長　　他に何かあるか。

委 員　　平成14年に東京都の温室効果ガスの削減義務と取引量制度の策定があり、該当事業者が義務化されて決まり、その効果が出るのが平成15年度だと思う。資料のグラフからもわかるとおり、平成15年度から横ばい、もしくは下がっていると思うが、すごく

大きな変化があると思う。今回検討していく上で大事な点だと思うが、東京都はこの件について、報告書等を出しているのか。

事務局 ホームページ等で確認する。

会長 他に何かあるか。

委員 先ほど諮問いただいたが、計画書の17ページからある第3章を変えるということか。それとも、計画書を全体的に刷新するということか。

事務局 この計画を策定してから5年が経過し、その間、東日本大震災、それにとまなう福島第一原子力発電所の事故等を加味して、エネルギーの構成がかわってきている。現状の計画では平成32年度までに平成2年度時の15%の二酸化炭素の削減というものを目標として掲げている。社会的な情勢を踏まえ、目標値はこのままでいいのか、国の新しい目標が出たが、それに基づいて目標値をどうするのかを見直す。

これまでの計画書の中にある施策はまだ続けた方がいいのか、ある施策は目標を達した、違う施策にした方がよい等を審議いただきたい。計画書を一新することは難しいが、変更点を記載した概要版を改めて作成したいと考えている。それにあたって目標値をどうするかということ、審議いただきたい。

委員 カーボンオフセットの結果は出ているのか。

事務局 カーボンオフセットについては、市の事業となっているので、市の施策の進捗状況の中で次回、あわせて出す予定である。平成23年度から姉妹都市である佐久穂町とカーボンオフセットの事業として実施しており、二酸化炭素の吸収量は積み上げで約911トンである。

会長 他に何かあるか。

委員 14ページの府中市の6ガスというところで、ハイドロフルオロカーボンの増加について、要因としては、モントリオール議定書の規制対象であったHCFCsの代替となっていることによるものであるとの記載があるが、HCFCsの排出量の推移について、併記できないのか。それがわかれば、ハイドロフルオロカーボンの排出量の今後の推移などがわかるのではないか。

事務局 推移がわかるかどうか、確認する。ある時点でこのくらいの排出量があったというのは出せると思う。今後、HCFCs類だけでなく、代替フロンというものから温室効果ガスのケースの少ない、ノンフロンへさらに移行する動きもあるので、どの段階での数値がだせるか不明であるが、参考数値として数値は出せると思う。

委員 10年前と今では、人口がこれだけ増えたが、その変動に対してCO₂はこれだけしか増えてないから、その増加分としては努力した、ということがわかるような、成果が見えるような資料は出せないのか。

会 長 結局、原単位自体を減らしていく活動をしなければならないと思う。

委 員 会長が言うように、原単位を減らす努力をしなければならない。ごみ減量についても、1人当たりのごみの量をいくつにしましょう、という目標を立てている。

委 員 現在もマンションがどんどん増えているのに、二酸化炭素を減らしていくのは難しいと感じる。1人当たりどのぐらい、といったものがないと難しいと思う。

会 長 事務局はこの質問についてどう考えるか。

事務局 人口や産業が伸びれば、いくら個々の数値が減っても、掛ける数値が増えてしまい、トータルとしては増えていくので、原単位という考えが1つあるかもしれない。2回目、3回目で事務局としての方向性は示し、その中で実際どうなのかという意見もいただきたいと考えている。しかし、その中でもパリ協定で今回、全ての国が温室効果ガスの削減に努めることに同意したが、府中市の人口が増えたからその分、増えてもいいというわけではないとも考えている。実現可能性というものももちろん出てくると思うので、そこのバランスをどうとっていくのか、難しいかと思うが、人口増加、産業増加の中でも、全体として減らしていかなければいけないというのは必要だと思う。

会 長 第2回、3回の審議会で引き続き議論をさせていただきたい。次に、次第の4. 議題、(3) 市民及び事業者の環境意識調査結果について、事務局から説明をお願いします。

事務局 (市民及び事業者の環境意識調査結果について説明)

会 長 今の説明に対して質問や意見はあるか。

委 員 アンケートの中で、地球温暖化についての自由意見を書いてもらう欄があったと思うが、どのような意見があったのか。数点教えていただきたい。

事務局 自由意見については、200件弱回答いただいているので、関心が高いことがうかがわれる。数点紹介する。なお、原文ままである。

- ・ CO₂削減という効果がわかりづらいモノに対してはどうしても積極的に行動しづらい。(氷河期とかもっと大きな温度周期からしたら温暖化なんてゴミか。)やはり目先の利益がないと人間は行動しないのでは。
- ・ これから夏、暑いですが、スーパー等々、どこも冷えすぎているように感じます。皆で気をつけていきいいですね。
- ・ 普段、地球温暖化について意識していないため、市の取り組みについてほとんど知りませんでした。
- ・ 地球温暖化は大切な問題なので冷暖房は極力つけない、テレビは必要ない時は消す。公共の乗物、又は歩く事を心掛けています。
- ・ 府中市で配布される冊子などは読まないのだから分かりません。〇〇新聞の様にアプリにしたりしてもらえるとまだ、見る機会がありかと思えます。
- ・ 企業による節電、深夜営業の時間短縮

- ・ 地球温暖化は、少し前までは、テレビなどでも取り上げられ、積極的に防止に取り組もうとしていたように見えてましたが、最近では、オゾン層破壊も進み、海で吸収していた気温も吸収しきれず、天候異常がおこっています。小さなことから、こつこつと地球温暖化防止への取り組み期待します。
 - ・ 5年が経過し、温室効果ガスの削減の意識が薄れていると思う。(自分も含めて)改めて、温暖化防止に繋がる暮らし方(具体的な)温室効果ガス排出抑制のための組織・しくみ。市民の環境学習が必要に思います。
- というような内容である。

委員 アンケートを出して回答をいただいた以上、それをどこかに載せないといけないのではないかと。

事務局 自由記入欄すべてを載せることは考えていない。

委員 市の施策に関するかかわりのあることや、個人家庭でやるべきことなど、ジャンルに分けて項目ごとに提供できるといいと思う。

事務局 今後、個別施策についても考えていかないといけないと思うが、その時には個別に出た意見の中で、具体的に書いてあるものもあるので、参考になってくると思うが、個別に記載することは考えていない。○をつける記入欄ではなく、本当に思っていることを書ける欄にはなっているので、施策に直結することはあると思う。

会長 いい提案があったら活かしたいので、事務局で検討してもらいたい。他に質問はあるか。

委員 市民アンケートは20歳以上で出したとのことであるが、解答欄のところに10代の選択肢があり、25ページのところを見ると10代の人1人いるが、これは年齢ノーアンサーのところに入れたらどうか。また、アンケートの質問には70代しかないが、回答集計には70代以上になっている。実際にはどのように記載して出したのか。

事務局 70代で出している。

委員 そうであれば、こちらの記載も70代にした方がいい。

会長 そのとおりである。整合した方がいい。

委員 23、24ページのところで、地球温暖化防止についての相談窓口が環境保全活動センターとなっているが、そのような機能はあるのか。地球温暖化について相談したいと市民から連絡が来た際には、環境政策課につながれ、ここに来てくださいと案内する仕組みになっているのか。

事務局 現在、環境保全活動センターに常駐している人はいないので、現状では代表にかかっていた電話は、環境政策課につながれ、基本的には職員が対応することになる。しかし、環境保全活動センターの将来像として、地球温暖化の取組についての相談窓口の機能を

持つことを目指すということで動いている。

会 長 他に何かあるか。

委 員 中間見直しについて、計画書の77ページの目標数値が書かれた表が、どこまで達成されているか、取組は何パーセント達成されているかについて、第2回の審議会で出せるのか。

事務局 77ページの表がどこまで進んだのかを把握するためのアンケートとなっているが、この表の取り扱いとして、明確に市の行っている施策と合致していないものもあり、取組状況が出せないものもあるので、77ページの表をそのまま出せるものではないと考えている。逆算で出しているものもあり、積み上げで出せないものもある。

委 員 数値化できないものがあるということか。

事務局 そのとおりである。

委 員 例えば、削減目標のところ、キロトンCO₂というのが出ているが、このあたりが実績として出せるのか。

事務局 例えばエアコンの温度ということで出ているが、全世帯が取り組んだとしても本当に3.3キロトンのCO₂が削減できるのかというのが、実際の数値とは合っていない。

委 員 しかし、何らかの形でこれに対応した形で出してもらわないと、見直しが出来ないと思う。

事務局 アンケートもこの表に対応できる内容で設問を作成しているので、全てというは難しいが、意識的なところでどのくらい進んだかなどについては答えられると考えている。

委 員 今日の議事の最初にあったマクロのグラフ、データを見て我々がどうしようというのは難しいと思う。やはり、具体的な施策がどの程度達成されているのが示してもらえば、議論が出来ると思う。先ほどのマクロのデータでも、世帯が増えればCO₂が増えるのは当たり前だという話になってしまうので、具体的な施策が何パーセント達成されているかということについて、検討していく方がよいと思う。

会 長 非常に貴重な意見をいただいているが、時間がないので、次に進む。改めて、全体を通して何か意見や質問はあるか。

委 員 スケジュールの中でパブリックコメントの後、答申には反映されない事が前提になっているが、どうなのか。スケジュールでは、答申の後の4回目の審議会で、パブリックコメントが我々に示されるとなっている。答申にはパブリックコメントは反映されないということなのか。

事務局 答申の前にパブリックコメントを審議していただくパターンもあるが、今多いのは、

答申をいただき市がパブリックコメントを実施するというパターンである。答申後にパブリックコメントを実施し、その意見をどう活かすのかは基本的には事務局が考えるべきことではあるが、審議会の答申を基にしているので、答申にどう市民意見を反映させるのかは、第4回の審議会で報告する。

委員 委員の方から最初に質問のあったことの確認であるが、この審議会で中間見直しについて、どのような答申を出そうとしているのか、わかりやすく示していただきたい。

事務局 見直しの視点ということで、資料の1ページでは示しているが、今後このような見直しを事務局は考えている、というのはお示しする。

委員 もう一点、府中市の総合計画、施策の29でCO₂の削減が15%以上の削減というものがあるが、中間見直しで変更すると、総合計画に影響が出てきてしまうのではないか。この点について確認してほしい。

事務局 確認する。

会長 今日、事務局の方から非常に詳細な報告があった。おそらくこの席上で全て理解したわけではないと思うので、何か意見があったら、メールでも事務局の方へ伝えてほしい。次回の審議会の時には、本日事務局から示されたデータについて、委員のアイデアや意見を、お願いしたいと思う。それでは、本日の審議회를終了する。

以上